

令和4年度 第6回 彦根市図書館協議会 議事録

開催日時：令和5年（2023年）3月15日（水）

午前9時30分～午前11時40分

開催場所：彦根市役所 5階 5－1・5－2会議室

出席者：久木 春次 【彦根の図書館を考える会 代表】
（委員） 森 将豪 【彦根市社会教育委員 委員長】
若林 陽子 【彦根市地域文庫連絡会 代表】
平井 むつみ 【滋賀文教短期大学 教授】
村田 恵美 【滋賀県立図書館 館長】
北村 みずき 【ひこね児童図書研究グループ 会長】
木村 正彦 【彦根史談会 会長】

事務局：小島図書館長
大野図書館次長

事務局	皆様、おはようございます。 ただいまから令和4年度 第6回 彦根市図書館協議会を 始めさせていただきます。 委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いた だきまして、誠にありがとうございます。
	・・・（会議資料、協議会成立の説明）・・・
館長	・・・あいさつ・・・
会長	皆様、おはようございます。 それでは、次第に沿って進めさせていただきます。 まず、議事（1）「図書館利用に関するアンケート結果」に ついて、事務局より説明をお願いします。
事務局	・・・説明（資料2－1、2－2、2－3参照）・・・
会長	ただいま事務局から図書館利用に関するアンケート結果に

委員	ついて、説明をいただきました。 委員の皆様、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。 一括では大変なので、少し範囲を狭めて４ページまでくらいで、ご意見はありませんか。 ９ 図書館サービスの満足度についての項目ですが、サービス利用については、ほとんど８０％以上の満足度をいただいているのですが、社会も変わっていく中で、今後、図書館側として、特に、この項目については、力を入れていきたいというところは、ございますか？
事務局	今回のアンケートにおきまして、一定のご評価はいただいていると思っています。 新刊が少ないというようなご意見もございましたけれども、財政状況が厳しい中、図書購入費につきましては、一定の金額を確保いたしておきまして、年間約１２，０００冊程度の新刊を毎年購入させていただいております。 どうしても新刊の人気のある本は貸出が多く、予約の状況に応じて冊数は購入しておりますが、皆様のご要望の多いような本は、充実させたいと思っておりますし、それに限らず各分野満遍なく、図書の充実を図っていききたいと思っております。 また、これからの時代としましては、電子図書というような部分も一定の図書館サービスとしては必要かなということもございますので、そういった導入についても検討していきたいと思っております。 あと図書館の見せ方というのか、そういったところですね。 単に本を書架に並べて読んでいただいたり、借りていただくというようなことではなくて、併せて、居心地のよい図書館づくりというような点も大切な要素であると思っておりますので、そういったところも含めて、図書館のサービスの充実ということを図っていききたいと思っております。
委員	前提について、お聞きしたいのですが、アンケートの取り方は、置いてあるのを自分で取って、書いて入れるという形ですか？ 例えば、１０代が非常に少ないですけれども、それぐらいの年代の子というのは面倒くさがって取らないとか、この年代別

事務局	というのが実際に来館者と、どの程度、反映しているとお考えか、お聞きできればと思います。 今、委員がおっしゃいましたように、アンケートを館の入り口に置いて、回答いただける方に回答していただいたという自由記載な形ですので、一定の利用状況は反映しているかなと思いますけれども、若い世代というのはなかなか積極的には書いてもらえないというような傾向はあるのかなと思っております。 これが利用者の年齢構成を現わしていると思いますけれども、その辺りのところは加味しなければいけないかなと思っております。
委員	委員がおっしゃったことに関連するんですけども、これは利用者の満足度のアンケートということですので、もちろん、それはそれで趣旨に合っているとは思いますが、市民全体の図書館に対する思いやアンケートではないということ、を、図書館の方もしっかりと受け止めていただいてほしいと思います。 市民として、いつも生活している実感で、市民の方がこれだけの満足度を持っているとは、到底思えないんです。 厳しいようなんですけれども、満足しているし、なので図書館を利用していると、そういう利用をされている方のアンケートの結果であって、彦根の図書館に行ってもという感じの方で他の図書館を利用されている方も、結構耳にします。 辛口のことを、毎回言って申し訳ないですが、以前、司書さんにも言わせてもらったことがあります、今、何をどうすればという具体的なことは私にも言えないんですが、例えば今、新しくできたプロシードアリーナに少し図書スペースがあります。 もちろん、図書館とは、全然違いますし、冊数も全然違うんですが、私、ちょっと他の講座で行く時に、結構、小さい子どもさん連れの親子連れが午前中に来られています。 私の孫達も、今、母親が育休中でずっと家にいるのですが、距離もあります、やっぱり、幼い子を連れていきたいと思うような、先程、事務局もおっしゃってくださっていたんですけども、居心地のよい図書館になっていないとまでは言いません

事務局	けれども、この数字はそういう市民の思いや満足度からするとかなり高めに出ているなと思いますので、その辺についても加味していただきたいなと思います。 ついでにについては申し訳ないのですが、前回、司書さんの思いが館長さんに届いていないというような受け止め方をされてしまったんですけれども、館長さんはしっかりと聞いてくださっていると思いますし、司書さんも一生懸命してくださっているのは、私、ずっと長年、図書館を使わせてもらっていてよくわかるんですけれども、でもやはり、正規採用のプロである司書として申し訳ないんですけれども、とてもお人が良くて謙虚な方が多いです。 なので、もう少し、あと一歩前に出ていただくというか、例えば、ボランティア団体とか、ボランティアに対して指導するぐらいのモチベーションを持ってもらいたいなとか。 例えば、館長さんや行政の管理職の方に意見を戦わすぐらいのモチベーションを持って、頑張っって欲しいなということなんです。 決して、館長さんが聞いておられないとかそういうことではないんです。 また、それを申し上げると司書さんも限られた人に対する批判のようになるので、申し上げにくかったんですけれども。 プロとして、最近、助成金とかも少なくなってきましたので、私たちボランティア団体や文庫連とかの講師として、研修会の講師として司書さんのお話を聞かせてもらいたい等、そういう色々な思いもありますので、その辺、司書さんがプロとして、もう一歩前に出て、頑張っっていただきたいなという思いです。 まず、司書の件ですけれども、ボランティア団体さん含めて、そういった連携というのは大切でございますので、そういった点、また、そういう機会がありましたら、司書として参加させていただくということも、検討はさせていただきたいと思っています。 日頃ですけれども、私も司書も含めて毎日のように図書館の業務については議論というのか、そういった部分は、自由闊達な形でさせていただいているつもりでございますので、そこら辺は、ご理解をいただけたらと思います。
-----	---

委員	今の図書館自体が40年ぐらい経っている図書館でございます、延べ床面積も、最近建てられた図書館と比べると狭めかなという気もしております、書架に面積も取られているというような部分もあって、そのゆとりという部分が、最近の図書館に比べると少ないのかなという気はしておりますので、そういった点も、今後、複数館化してまいりますので、そういった機会を捉えまして、全体として考えていきたいなと思っていますところです。 委員が、今おっしゃったことそのままなんですけれども、アンケートにおける年齢構成、回答していただいた方の年齢構成というのは、分析していく上で大きな要素となってきます。 県立図書館でも利用者アンケートは毎年取っているんですけれども、その時は入り口のところで入って来られる方に、全員、手渡しでお配りして回収するということをしております。 置いておくと、どうしても年代の高い方が答えてくださる傾向がやはりあるように思います。 そこら辺、ちょっと手間なことなんですけれども、県はこんなに長い期間を取らず、2日ぐらい集中的に全員にお配りしてという形で取っておりますので、また、今後お考えいただけたらなと思います。 それと、委員がおっしゃられましたように、図書館にやって来られる方のアンケートはそのように取れるんですけれども、来られない方は図書館のことをどう思っているかということも、非常に私達としては知りたいところだと思います。 県立では、県がやっております県政モニターアンケートですとか、県政世論調査とか、一般の方にアンケートを取れる機会を見つけては、そこは申請して選ばれるということが必要なんですけれども、あと、他の図書館さんに県のアンケートの用紙を置いてもらうとか、そういったことをしながら図書館に来られない方、何でその方達が来られてないのかなというのが非常に知りたいなとは思っていますので、そういった形で来館される方、来館されない方、双方の意見をお聞きして分析していくことが必要かなと思っています。 また、委員が言われました司書による一歩前に出たサービスを実現していくためには、やはり、その司書職の職員が長くそ
----	--

事務局	の図書館に居て、利用者のことも、資料のことも、十分、知った上でないと、なかなか、その先のサービスというのはできていかないところかなと思っております。 ですので、そういった長い目で見ながら職員が育つ、それは日々の業務の中で、また、利用者の方から育てていただくというようなところが非常に大きいと思っております。 そういった職員が育っていくといいなあという風に思っておりますので、よろしく願いいたします。
副会長	参考にさせていただきます。 資料２－２の１番の年齢の表を見ていただきますと、７０代以上が平日では一桁多いんですね。 その次が６０代。 平日は、７０代以上の人が多くて、土曜日になると他の世代とあまり変わらなくなるくらいガタッと下がっている。 平日・土日を混ぜたものを見ますと、６０代以上リタイヤした世代ということになると思うんですけども、この方々が合計のうち３３１ぐらい、６８２のほぼ半分ぐらいがそうになっている。 そういうことを見て、質問４の来館目的を見ますと、滞在型の図書館ではないという風にコメントされていますけれども、私がアンケートを書く時には、多分、かっこよく書いてしまうんじゃないかなと。 つまり、本を返す、調べる、借りるとか、そっちの方に書いてしまった方が本来の目的に沿うかと。 滞在型というのは、来たついでにそこで何か、色々なことを見たり、しようというのも滞在型ですので、そういうことを考えると、調べもの、読書というのは、重い書物、一つの主張があるような書物みたいなものを見られる場合が、そうなのかもわかりませんが、そうじゃなくて、色々、平たく言えば雑誌とか、そういうものまで情報を入れようというのも、事のついでにしておられるかなという気がします。 私だったら、せっかく行ったついでなので、色々なことをやろうと色々なものを調べよう、せっかく来たんだからという形になると思います。 そうしますと、この１番目のところの６０代、７０代が多い

	と。 特に、70代がこれだけ一桁も多いというのは、10月にアンケートを取っておられますから、ちょうど、第8波に行くちょっと前の小康状態の頃かなと思うんですけども、その時でもこれだけ。 70代以上の高齢者というのは、コロナに対して危険な世代ということで、気をつけてくださいと言われているにも関わらず、これだけの方が来られているということなので、結構、滞在型としての機能を発揮しているのではないかなと私は思ったりもしているんです。 だから、滞在型じゃないから滞在型にするための対策を取るというのに突っ走るんじゃないしに、分析というのが難しいので、どうか慎重にしていただけたらと思います。 それからもう一つ、市民の方に対して声なき声というものもあるんですけども、やはり、図書館があるからには、そこに行ってなんぼのもんですからこれは。 いろんなやり方もあるんでしょうけれども、個人によって満足度というものは違うと思うんです。 その辺のこともあるので、分析の難しさというのをつくづく感じております。
事務局	アンケートの配布方法ですが、入り口に記載台を置いてそこにアンケート用紙を置いておくという部分と、併せてカウンターで図書貸出時に手渡しをしておりました。 2通りの方法で実施しておりましたので、修正させていただきます。
会長	他に、ご意見はございませんか。 それでは、5ページから7ページにつきまして、ご意見をお願いします。
委員	6ページの⑦行事（おはなし会、リサイクル市等）の結果に本当に驚いてしまって。 私たち読書ボランティアは、先週の土曜日、それから先々週の土曜日におはなし会をしたんですが、二組の親子で、子ども達が二人、三人なんですね。 おはなし会をしても子ども達が集まらない、どうしてだろう

事務局	という風に思っていたんですが、おはなし会を知らない、参加したことがないと半分の方が答えてる。 ちょっとショックを受けまして、私たちの会は40年も続けているんですが、こんなに浸透していないんだという風に。 それから前のところで来館者の時間帯があったんですが、時間帯は3ページにありますように、ほとんど午前中に集中している。 とにかく、おはなし会は2時から始まるんですね。 すると人はあまりいなくなった頃におはなし会をやっているんだなと思って驚いてしまったんですが、また、おはなし会の実施の時間帯、それから広報の仕方、現在ひこね広報に載せていただいているんですが、もう少し市民の方の目に触れるような広報の仕方、それから、また、図書館の皆さんと一緒に考えていけたらなと思いますので、よろしく願いいたします。 おはなし会等の開催時間につきましては、今後、コロナ禍のコロナ対策も緩和されていきますので、もちろん、午前でもさせていたいただきたいと思ひますし、午前・午後という形でもよいかと思ひております。 また、広報の方法につきましては、おっしゃっていただきました広報ひこねなりカウンター前に掲示させていただいておりますし、ホームページ等の活用も含めて広報しているかと思うんですけども、できるだけ皆さんの目に触れるような方法というのを、ご一緒に考えていけたらなと思いますのでよろしく願ひします。
会長	それと併せてですけれども、私ども彦根の図書館を考える会の方も毎月1回水曜日に「おひざでだっこのおはなし会」というのをしているんですけども、やはり、児童研さんがおっしゃったような感じの参加になっています。 以前は、開架のフロアでさせていただいていました。 開架のフロアですというのは、椅子の数は多くないんですけども、ただそれを見ながら周りの方が、こんなのをやっているんだなと、そこで立ち止まってもらえとか、色々なメリットがあると思うんです。 今、事務局がおっしゃたように、コロナの方が5月8日から平常に戻るといふことですので、先程も話に出ておりました

委員	ように、図書館と図書館利用団体さんとの交流というか、そういうのを含めてしていただければいいかなと思っております。 ちょっとお伺いしたいんですけど。 資料２－３の⑦予約・リクエスト・相互貸借・返却等についてですが、すでにしていることがあると言われていましたが、在架予約のサービスはなさっていないのですか？ 例えば、行く前に「この本ありますか、今から行きます」というのもやってらっしゃらない？ あってもいった時に一足違いで借りられるということもあるということですか。
事務局	在架サービスは、今、現在させていただいておりません。 今後、複数館体制になった場合には検討したいと思っているところなんですけれども、人員体制等のこともございますので、現在は、サービスとしてはしていないという状況でございます。
委員	あの今の件なんですけど、複数館になったら近くに図書館ができるということもあるんですけども、今、とても遠いところから今の図書館に行くのが大変で、なかなか、行けないということがありますので、是非、お願いしたいです。
事務局	ご要望があるというのは我々も承知しておりますが、なかなか難しい状況でありまして、今すぐというのは、現実、難しいと考えているところでございます。
委員	在架予約は、県立もシステムとしては行っていないです。 システムでやるとたぶんすごく大量に入ってきてしまうので、人員体制的にもそれは無理だということで。 いつもアンケートを取ると要望があります。 やってはいないんですけどお電話などで一週間以内に行きますからというのでのお取り置きというのは受けているところです。 県内でも大津市等は、システムで在架予約も全部入るようにされているんですけども、やはり、かなり大変ですし、結局、取りに来られない方も多いということで、とても県立でも無理

	かなと思っています。 けれども、例えば、今日昼から行きますからとか、ちょっと期限を決めて何冊かお電話で受けるようなことは体制的にも大変なのはよくわかりますが、受けられるようにしてもいいのではないかとと思っています。 また、ご検討いただければと思います。 あと、私も資料２－２⑨図書館ホームページの内容に満足していますかいうところに利用なしというのが、とても数値が高いというのは気になるなと思っています。 利用できるようになっているネット上での貸出延長等ができるのに、それを知らないで使っておられない方がいらっしゃるんだろうなと思います。 それは、本当に県立でもそうなんですけれども、図書館側はやっていて、十分、広報もしていて必要な人には届いていると思っているようなサービスでも、例えば、長年、使っている方でも予約リクエスト等を知らなかったということも一般にあります。 これは、県立の課題でもあるんですけれども、やっているサービスをどの程度見せて、周知して、知っていただくかというのは色々ツールも増えてきているところではありますけれども、まだ、大きな課題だと思っています
会長	たくさん皆さんからご意見が出ましたので、その意見を含めて事務局の方で、今後、鋭意努力あるいはできるものであれば取り組んでいただくというような形で進めていただければと思います。 それでは「図書館利用に関するアンケート結果」については、その内容を確認したことといたします。 ここで5分の休憩をとります。 —休憩—
会長	続きまして、議事（２）「令和５年度市立図書館の評価項目および評価指標等について」の審議を行います。 事務局より説明をお願いします。
事務局	・・・説明（資料３、資料４参照）・・・

会長	ただいま事務局から「令和５年度市立図書館の評価項目および評価指標等について」説明がありましたが、委員の皆様、ご意見、ご質問等はございませんか。 まずは、大項目１、２、３あたりで、ご意見はありませんか。
委員	３②イ ブックスタート事業の推進のところですがけれども、１８回もされていて２７組の参加ということは、１回につき２組ぐらい２組もない参加ということですね。 これは、本当に寂しいなと思うんですがけれども、実施方法について検討を続けると書いてくださってるんですがけれども、何かどういう風にしたらいいかという案が、今、ございましたら伺いしたいです。
事務局	ブックスタートについては、健康推進課の４ヶ月健診の実施方法が変わりましたことから、それに併せて、従来の実施方法からブックスタートの形も替えた訳でございますけれども、ご指摘のとおり、検診日と別に読み聞かせの機会を設けるということしておりますので、参加者も少なくなっているということが課題でございます。 より来やすくしていただくためにということで、来年度につきましては、今、現在、午後に開催しておったんですがけれども、午後ですと赤ちゃんが寝てしまう時間帯でもあるということで、午前中に、その集いの時間を持っていこうかなと考えております。 開催場所としましては、今年度と変わりはないんですがけれども、図書館の他に稲枝地区の公民館、河瀬地区公民館、高宮地域文化センター、東地区公民館というような所で、市内可能な限り満遍なく会場設定をして、出かけやすくなるような形で進めていきたいと思っております。
委員	ありがとうございます。 先程のアンケート結果でも、やはり、午前中の方が利用者さんも多いということでしたし、赤ちゃんの生活リズムから考えても、午前中に変更していただきたいなと思っておりました。 ボランティア団体のおはなし会にしても、このブックスタートにしても、低年齢の子供の図書館へ足を運ぶ人数が少ないと

事務局	というのは、やっぱり、建物も影響していると思います。 その辺は、仕方がないと思うんですけども、できるだけ参加の人数が増えていけばいいなと思っております。 現在、図書館では、大規模改修を実施してるんですけども、施設全体が古いというのはどうしてもできないところもあるんですけども、トイレの改修というのを、今、考えていまして、その中で、子どもさん用のトイレというようなものも併せて整備したいなと思っておりますので、子どもさんにも配慮した図書館というようなことでしていきたいなと思っております。
会長	ブックスタートについては、ただ、健康推進課でそういのが出て、図書館が協力するというだけではなくて、やはり、最近では子育てが産後も含めてかなりこう女性に厳しい状態、女性だけに限らず家族にずいぶん重荷になっていると国会を中心に言われている訳ですけども、やはり、その中にあってかなり人数が少ない出生数になっていますので、そこは逆に1軒あるいは1人残らずブックスタートに健康推進であれ、図書館であれ、それが100%カバーされれば、それで良い訳でして、そういう風なスタート、育児の悩みであるとか色々抱えておられると思いますので、スタート事業のところから本を読んであげるとか色々な形が出てこようかと思いますので、それについては、今、委員が言われたように漏れのないような流れを図書館からつくっていただくことが必要かと思います。
事務局	今までは、4か月健診と10か月健診のところでスタートセットを渡したり、フォローアップということで読み聞かせというのをさせていただいたんですけども、現在、4か月健診の部分が民間の医療機関の方でされるということで、4か月健診に親御さんが子どもさんを連れて一堂に集まるという機会がなくなって、10か月健診の時にブックスタートの絵本等を渡したり、今、言われましたような子育ての相談というようなご案内をさせていただいており、今まで10か月健診でしていた読み聞かせを別の機会に設けているというようなところでございます。 そうなってくると、親御さんの意向で積極的に参加いただく

	ということですか、なかなか集まっていたくということが現実的にはできないんですけれども、図書館の中でそういったブックスタートの読み聞かせのご案内を絵本の書架コーナーに展示しておりますし、チラシもつくっておりますので、そういったチラシの配布先等も広く市の管理機関等にも置いていただくようなことにしまして、まずは、広く知っていただくというところから進めたいなと思っております。
会長	その部分につきましては、ボランティア団体の読み聞かせであるとか、過去からの積み重ねも、その図書館の方で連携しながらやってますので、得意分野でもある訳ですね。 連携ということも含めて、さらに充実させていただいて、あといわゆる学校に上がった段階での読書計画ですね、家庭の読書計画そういうのも含めて繋がっていくといいかなという風に思いますので、是非、充実させていただくということをお願いしたいと思います。
委員	同じ項目で、読み聞かせボランティアに対する研修を実施するという取組予定があります。 これは、とっても嬉しく思いまして、私達の団体もコロナ禍と高齢化で会員数が減っています。 なんとか新しい人に入っていただきたいと思うんですが、ボランティア養成講座のようなものを実施して、ボランティアの裾野を広げるという活動を図書館と協力してやっていただければと思いますのでよろしくお願いします。
副会長	読み聞かせということで色々と頑張っている。 それはそれで本当にありがたいことなんですけれども、今は専業主婦の方が少ないから読み聞かせというのも、なかなかできない。 育休で休んでおられる短い期間がそのきっかけになるかなと思うんですけれども、それだったら我々の世代が読み聞かせをしてもらったことを思い起こせば、誰にしてもらったかといえば、おじいちゃん、おばあちゃん。 おじいちゃん、おばあちゃんの膝の上に乗って、本をどかと積んで大変な苦勞をかけただろうと思うんですけれども。 そういうことを考えると、割と図書館には高齢な方が来てお

委員	られるということを思えば、その方に読み聞かせは大事ですからしてあげましょうねというサイドからの働きかけもできたらいいのかなと思います。 それと、ともに読み聞かせ等に関しては、色んな所が助成しようという子供の発達に関する助成金というのもありますので、団体の方には、そういう所の助成を上手く活用するというのもいいんじゃないかなと思います。 ちょうど国もそういうことでやろうとしているところですから、これから、ますます盛んになっていくんじゃないかと思っています。 中高生にとって魅力ある図書館にしていくということですが、中高生の来館者がアンケートでは非常に少ないということですが、これと関係してると思うんですけれども、中高生に魅力ある作家も必要なんですね。 例えば、今から10数年前ですと赤川次郎とか、アガサクリスティとか、アランポーとか、非常に人気の作家が居て、全国的な流れがあった訳でございます。 けれども、最近は、そういう人気の作家がいらないと思うんです。 図書館側ばかりのせいではないと思うんですけれども、選書される時に、やっぱり、世の中の一つの流れというものを、中高生の一つの魅力ある流れがあると思うんです。 そういうことも、また、キャッチしながら選書していくということが必要だと思います。
会長	5①ウですが、学校との連携が0ですね。 1とか。 これはどう評価するのかという。 おそらく、図書館の内部評価でもかなり考えられているとは思いますが、 根本として、学校と連携したという、こういう括りになってしまう訳ですが、図書館の方からこういうことでもっとこう数を増やしたいというような「待ち」ではなくて、図書館の方からという流れができていかないものかと思うんですけれどもいかがでしょうか？

事務局	学校側の中に教職員さんの教科ごとの部会というのがあるとお聞きしていますし、図書館部会というのもつくっておられると思いますので、そういったところにお声掛けして連携を図っていくということは一つ可能性としてはあるのかなと思います。 ただ、学校としてのカリキュラムの取組等の関係もあると思いますし、図書館部会でしたら取組方針等があると思います。 そういったところは調整しながら、何らかの形で図書館を活用していただくというようなことは可能かなと思います。
会長	是非とも、その方向でお願いするということと、これは何でかという通帳ですね。 読書通帳。 それを1年生から配るということですから6年生全員に行き渡ることになりますので、やはり、その通帳を利用するというのも。 機械そのものにお金がかかってますから。 そういうことを含めて事務局の方からありました学校図書館との連携ですね。 子ども達を図書館の方に誘うというか、そういう風なルートをつくっていただくということでお願いしたいと思います。
委員	今と関連して2つ質問があるんですけども一つはこの令和3年度の実績というのは具体的にはどんなものだったんでしょうか。 1になっていますので。 それともう一件なんですけれども、これは「学校と連携した学習と研究発表の場の提供回数」と書いてあるんですけども、これは、今おっしゃってた授業との関連のことをおっしゃっているんでしょうか。 それとも学校と、今学校図書館という言い方をなさったんですけれども、学校との連携全てを考えていらっしゃるんでしょうか。
事務局	まず、令和3年度の実績ですけれども、これはある小学校が図書館について勉強され、子どもさん達が作られたその研究内容をまとめたものを館内に掲示させていただいて、発表の場と

	して図書館をご利用いただいたというのが1件でございます。 ここにつきましては、そういった意味での子どもさん達の取り組みの発表の場として使っていただくのも一つかと思っておりますし、教職員さん自体の研究を学校の中でされるかと思いますので、そういった発表が図書館で、発表の場を設けていくというそういった所かなと思っております。
委員	学校図書館との関わりという風に考えた時に、学校への団体貸出というのはあるんですけども、学校図書館との関わりはどこに入ってきますでしょうか。
館長	今、おっしゃっていただいたのは、学校図書館との連携がどの項目に入ってくるかということでしょうか。
委員	はい。 今のところにそれも含まれているのかということなんですけれども。
館長	この項目自体は学校図書館との連携等、具体的な何かそういった意味での連携というのは想定しておりません。
委員	そういうのがあっても、ここには入ってこないということですね。
館長	そうです。 この項目の書き方でいくと入らないかなと思います。
会長	私の方でちょっと感じたことなんですけれども入館の数ですね。非常に多くて2月末現在で236,817人ですね。それと利用者数です。 今度は数が上がってこないですね。 といいますのが平成30年を見ますと入館者は18万。 この時大分減っているいろんな議論をした覚えがあるんですけども、それに対して利用者の方が113,883人で、この時の方が率として高い訳です。 そうなると、仮にその率でいきますと、やはり、もっと増えなければならないということになると思います。

	利用者数が増えるということは、当然、一人当たりの貸出冊数も、当然、増えていくという流れができていれば、令和5年度の目標ですね、目標264,000という相当な数になる訳ですけれども、歓迎したいという風には思うんですが、何かこう見てくると図書館の利用の本旨というか「図書館に行く、本を読む、本を借りる、リクエストをする」この巡回だと思うんですね。 それが、どうもできていなくて、図書館がこう上滑りしているような感じがしております。 今日の皆さんの色々な議論や意見を集約させてもらおうと、やはり、そこには、いわゆる図書の本をどう動かしていくのかという根本のところもう少し欠けているのではないかなと。 先程、副会長が言われてました高齢者ですね。 高齢者の方の利用が多い。 この辺りどうしていくのかと。 ただ、来てもらって帰るだけだということではなくて、今ある68万という膨大な数の資料をどういう風に動かしていくかということになりますと、これは、先程、意見が出ましたように、いわゆる、専任の司書さんを計画的に配置すると。 もうすでに取り組んでいただいていますので、その辺りの体制をしっかり立ててもらおうということに尽きるかなと思うんです。 それがなければ、おそらく彦根市の図書館の評価の指標が人数増えている、集客という言葉が良いかはわかりませんが、そういうことでは非常に有効な場所ではないかという、そこら辺で終わってしまうような。 そうではなく新しい図書も入れながら今までの資料をどういう風に回転させていくか。 これはもうよく言われるように彦根の図書館の資料は古い、汚いと。 それは当然。 年数が蓄積すれば劣化したり色んな事をする訳ですが、それを、全部、捨ててしまうという訳にはまいりませんので。 その本をいかに回転させていくか、その辺りについては、やはり、専任司書の仕事に、当然入ってきますので、是非、計画的に人員の育成を図っていただきたい。 反映されれば、おそらく、この数字はもっと上がると。
--	--

	今、そういうことをやっていかないと次に複数館の時にじゃあどういう体制を取るのかといっても、全然、間に合いませんよね。 やはり、今の図書館の体制の中で蓄積されたそれが次の図書館の方にも複数館になる時に生きてくる訳ですから、その辺りをしっかりやってもらいたい。 今回、前回、事務局の方で職員体制という部分については「司書を中心に」という大きな文言が入りました。 これについては、ただ文言だけではなくて、その司書を中心としたという、どういう体制になるのかということになってこようと思いますので、今の彦根市の体制をお伺いしていると行政の面で入る。 そして、司書は司書でというそういう二つの流れがありますので、それを管理・運営の二つに分けて組むのは彦根市図書館が管理運営ということになる訳ですけれども、その実際の運用については管理の部門ともう一つ運営。 この運営というのは明らかに専任司書の部門になりますので、その辺りをきっちり立てていただく、そのことがさらに数字を伸ばしていく。 そして図書館利用者が増えていくという形になろうかと思えますので、その辺、是非ともお願いしたいと思えます。
会長	それでは、他にご意見、ご質問等がなければ「令和5年度市立図書館の評価項目および評価指標等について」は提案どおり進めることとしたいと思えます。 本日は、かなり皆さんにご意見いただいておりますので、それが反映されるということも含めて確認という事にしたいと思います。
事務局	本日の議事はこれをもって全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しします。 会長、ありがとうございました。 本日の協議会を持ちまして、今年度の図書館協議会は最終となります。 今年度は、図書館整備基本計画の改訂に向けたご審議を行っていただくため、6回の協議会を開催することとなりました。

館長	委員の皆様方には、お忙しい中、ご協力をいただき、ありがとうございました。 なお、令和4年度の評価結果につきましては、各評価項目の実績、課題、アンケート等の結果をもとに図書館で自己評価を行った上で、皆様に、ご評価をお願いしたいと存じます。 スケジュールとしては4月から5月にかけて図書館の内部評価を行い、6月に第1回 図書館協議会を開催して皆様に評価をいただきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。 それでは、協議会の閉会にあたりまして、図書館長がご挨拶を申し上げます。 皆様、本日は、令和5年度の図書館評価のための評価項目および指標の設定につきまして、ご審議を賜りましてありがとうございました。 本日、ご審議いただきました各評価項目・指標を達成することが彦根市図書館整備基本計画に示しております基本目標なり基本方針の実現に繋がってまいります。 引いては、本市の図書館サービスの充実に繋がると考えております。 その達成に向けまして、図書館としましても鋭意努力してまいりたいと考えております。 また、皆様には、本市の図書館行政の基本となります彦根市図書館整備基本計画の改訂を行うにあたりまして5回に渡りまして協議会でご審議なりご意見をいただきました。 おかげさまで改訂案をまとめさせていただくことができました。 本当にありがとうございました。 今後、この計画につきましては、改訂ということになりましたら、中央館の整備地の明記なり（仮称）中部館の位置づけをさせていただくことができましたので、市内に均一した図書館サービスの提供のための図書複数館化ということの実現に向けてより現実的なものになってくるかなと思っているところでございます。 そうしましたことから、本市の図書館サービスのここ数年で大きな一つの変革期を迎えたかなと考えておりますので、この機会を捉えまして、ソフト面それからハード面、両面から皆様に必要とされる図書館となりますように努めてまいりたいと
----	---

事務局	考えておりますので、今後もよろしくお願いしたいと思います。 それでは、最後になりますけれども、会長はじめまして皆様には多大なご協力を賜りましたことを改めてお礼申し上げます。 ありがとうございました。 それでは、これをもちまして第6回 図書館協議会を閉会とさせていただきます。 本日は、どうもありがとうございました。
-----	--